

第五席 醫學士栗本庸勝氏、臨床顯微鏡の應用  
第六席 ぶくぶる木村順吉氏、子宮結核ノ一二  
實驗に就て

第七席 醫學博士坪井次郎氏、芽生黴菌に於ける  
近今研究の結果

右了りて後樓上にて茶菓の饗應あり又當日樓上  
に陳列せる標本は左の如く其顯微鏡的標本は一  
々顯微鏡に裝置したり

① 芽生有る芽生黴菌 坪井 次郎君出品

② 大腸皮質ノ神經細胞及神經纖維

③ 全上

④ 有髄全部ノ神經細胞 以上三種 新井春六郎君出品

⑤ 大腸菌(チコウヤクネセルモン)

⑥ ノキト菌 (今回標本ニテ採取セルモノ)

⑦ 全上 (香港ニテ採取セルモノ)

以上三種 遠坂 兵吾君出品

⑧ 松島節澤培養コロンバ菌

⑨ ノキト菌ニ培養セル菌

以上三種 金山 信篤君出品

(10) 非コレラ患者便中ノ糞菌(スヘルレン)

(11) 全上

(12) エイランノ性白血球

(13) 再培養セルコレラ菌

(14) 丹毒連鎖球菌 (純培養)

以上五種 關置誠純出品

菌科各種培養物

松島節澤培養セルコレラ菌培養

白黴菌培養

白黴菌培養(原シシ菌見方死体ニ自)

以上二種 町田鏡之助君出品

●東京顯微鏡講習科卒業試験問題

同院にては五月十二日より同十七日に至る間第  
九回顯微鏡講習科及公第五回種痘術講習科の卒  
業試験を施行せられたり其問題及擔當委員は左  
の如し

顯微鏡講習科試験問題

新井講師

(一)細胞の造構(二)神經纖維の種類及造構(三)  
透明試薬の種類

入澤講師

(一)ニエトランデル氏液とは何を其成分及び用  
法(二)牛乳中の主成分(三)白血球の種類(形態  
學上の分類)

同實地試験(ア)コレラ菌を培養

(一)蛔虫卵、鞭虫卵(二)肝臟ダストへ虫卵

遠山講師

(一)顯微鏡下に於て「ア」キガラスの上面及下  
面に在る物像の判別法は如何(二)間歇殺菌法の  
論理(三)實扶廷里菌の形態は如何及痰膜中殊に  
何れ部に存し如何なる微菌と混在することあり  
や(四)虎列刺便顯微鏡的所見及其診斷上の價

値は如何

實地試験(ア)コレラ菌を培養

(一)化膿性葡萄球菌(二)テイクスマ菌

山極講師

(一)肉腫と癌腫との鑑別(二)悪性腫瘍の性状  
(三)腫瘍と炎性新生物との別(四)癌腫の種類  
(五)腫瘍の診斷法

種痘術講習科試験問題

沼野講師

(一)羊痘胞と牛痘胞との區別(二)種痘前後の處  
置(三)牛痘の経過(四)切種とは何ぞ(五)痘苗貯  
藏法

●顯微鏡院卒業式

同院にては前項の試  
験を結了して同月十九日午後一時より同院に於  
て第九回顯微鏡講習科及第五回種痘術講習科卒  
業式を舉行せられたり定刻に至るや來賓講師院

員並に卒業生等一同着席し同院主事佐藤保氏式の挨拶を述べられ夫より遠山講師は顕微鏡科卒業生に證書を授與し次に三島講師は種痘科卒業生に證書を授與し了りて遠山三島山極三講師の演説あり次に顕微鏡科卒業生總代金山信篤氏種痘科卒業生總代大塚信氏氏の答辭あり次で同院賛助員山根警察局長の祝詞同、三浦(守治)大學教授の演説、卒業生今井仙太郎氏及び同院助手名川徳太郎氏の祝詞ありて其式を終りたり其卒業生諸氏の姓名左の如し

第九回顕微鏡講習科卒業生人名

及第證書の分  
 兵庫縣 坂部 秀夫 新潟縣 星野 昌平  
 三重縣 森田 完 山形縣 宮下 成尹  
 茨城縣 大塚 信民 長野縣 菊池音之助  
 千葉縣 大山 昇 島根縣 作野諒之助

滋賀縣 常喜榮太郎 岐阜縣 高橋慶太郎

卒業證書の分  
 長野縣 金山 信篤 東京府 高岡 秀  
 秋田縣 千葉 勝景 三重縣 堀内 哲  
 埼玉縣 長崎 福彌 福岡縣 今井仙太郎  
 東京府 細野 順 東京府 中山 弘毅  
 山梨縣 長田 伊佐 青森縣 出町紋三郎  
 新潟縣 渡部 要 新潟縣 鳥居 貞輝  
 神奈川縣 山口乙八 東京府 佐竹鑑太郎  
 秋田縣 高橋 定治 新潟縣 若槻彦三郎  
 秋田縣 佐藤 篤治

第五回種痘術講習科卒業生姓名

及第證書の分  
 山形縣 宮下 成尹 茨城縣 大塚 信民  
 滋賀縣 常喜榮太郎 新潟縣 星野 昌平  
 兵庫縣 坂部 秀夫 長野縣 菊池音之助

卒業證書の分

長野縣 金山信篤

右式了て後同院樓上に於て茶菓の饗應あり又數臺の顯微鏡に裝置したる珍奇の標本を縦覽し午後四時頃より來賓講師を初め一同轡を連ねて鳥森湖月樓に赴き同樓庭前に於て撮影せしめ夫れより卒業宴會を開き席定るや卒業生總代中山弘毅氏の挨拶あり次に遠山、入澤兩講師謝辭を述べられ卒業生坂部秀夫、今井仙太郎、常喜榮太郎、鳥居貞輝諸氏の演説あり献酬談笑宴將に酣ならんとする頃卒業生細野順、中山弘毅兩氏ノ案に成れる福引の餘興あり其趣向は總て顯微鏡に因縁ある題に限られ其數約五十餘題其題を披露し實物を出すや坐客皆新奇と稱し妙と呼はざるなし作者の奇智想へ見るべし既にして和氣満堂陶然歡を盡して散會したるは午後九時過る

頃なりしと云ふ來會者は三浦博士、山極、入澤、遠山、沼野の諸講師、院友、開業醫、新聞記者等にして近頃の盛會なりと

附記 當日同院樓上に陳列せし標本は左の如し

- (1) 齒垢(ロレン)
- (2) 再縮熱(ヒロフエーチ(血液))
- (3) アインズ氏病皮膚鏡片
- (4) 天然痘痘(紙片)
- (5) マルビキ層以下の細胞大空なるを見る(村上庄太氏出品)
- (6) 質布性里バチルス(純培養)
- (7) 質布性里バチルス(鏡像鏡布)
- (8) 丹毒連鎖球菌(純培養)
- (9) 沈澱シメック結核略液
- (10) 養液中ノヘマトイン結晶(結核菌ト誤認シ易キモノ)
- (11) 空井新バチレン

(12) 願出願書ノ内藤ヨリ採取シタルモノ

以上願書録本

外ニ

種別ニ關スル器械、圖書、動植物、帝國帝前院出品

右の式中卒業生の答辭祝詞左の如し

答 辭

凡ソ天下ノ事大ヲ推シテ小ニ及ボシ小ヲ充メテ大ヲ理シ初メ  
テ科學ニ精通スト云フ可キヤリ  
今ヤ我帝國ニ公ケル科學ノ發達ハ如何世界ノ眼目ハ盡ク我帝  
國ニ集注シ一事ニ物其神速ナルニ驚キリ就中我醫術ノ進歩ハ  
駭キ乎ト云フ止ムコトク其精進ノ固近キニ在リト云フモ過言ニ  
非ラザル可キ蓋シ願書録ノ世ニ出デシヨリ醫術ノ固學ヲ發キ  
ク微ノ變遷ヲ照シテ未知ノ眞理ヲ探ニシツテアル實ニ科學  
ニ進アラスカ嗚呼願書録ノ其ハ其微ヲ探ニシ其精ヲ精ニ切シ  
杏林ノ範圍ヲ超越シテ眞理ノ域ニ先登スル者ハ皆之他ニ非ラ  
ザル可シ雖然此學ヲ則途尚遠カナリ之ニ先登ヲ指導スル者且  
ツ生草奮勵不拔ノ精神ヲ要シ以テ益ク此學ヲシテ高貴ノ域ニ  
進メ向來醫學界ニ於ケル一人革命ヲナスノ導イトシメザル可  
キ

フ本院主進山先生不ク愛シ見レ所アリ新學ノ普及ナリ後進  
ヲ教育スルニ勤ムト茲ニ於テ奮躍門ヲ叩キ已ニ講習ケリ其  
一進ヲ窺知スルコト得タリ是レ恩賜ナル本院主及諸師諸賢ノ賜  
ナリ生草奮勵不拔ノ精神ヲ要シ以テ益ク此學ヲシテ高貴ノ域ニ  
進メ向來醫學界ニ於ケル一人革命ヲナスノ導イトシメザル可  
キ  
維時明治廿九年五月十九日  
東京顯微鏡院第五回講習科  
卒業生總代  
金山 信篤 謹白

答 辭

維時明治廿九年五月十九日東京顯微鏡院講習科第五回講習  
之盛典ヲ舉ケラレ名士碩人多ク場ニ臨マルモ我等ノ榮極マレリ  
ト謂フヘシ  
伏テ能ハレニ普那氏種痘術ノ發明海ニ絶代之遺業萬古ノ偉蹟ニ  
シテ五洲之民古今之人皆其德澤ニ浴セザルナラハ常ニ杏林ノ  
間ニ遊ビ露霜ノ圃ニ居ルモノ能ク其法ヲ請シ能ク其術ヲ究メ  
斯道ノ大用ヲ發揚スヘキナリ惜モ發明百年祀ニ際シテ之ヲ研究

ニ從事スル者皆殊ナランニ 我等 身體ノ器取テ此ニ當ラヌト  
雖モ 諸師諸君ノ熱心ヲ示導ト恩賜ナル教訓トニヨリ精カ得  
ル所ナキニ非ラズ愈々 驅馳努力シテ以テ本院種痘科創立ノ  
主旨ヲ體シ一ハ以テ恩師ノ弘訓ヲ職フモサラシメテ庶幾ス禮  
ヲ答フ

第五回卒業生總代

大塚 信民 再拜

答 辭

明治の大御代となり、昔の學術日に日に開け行くが中に我醫  
學界の進歩いよいよ進まはれりや。これ蓋し時勢の然らしむ  
る所ながら、又諸先輩の勉め勵み給ふ功績の現れしものに  
外ならざるべし。實にや學術の進歩は日に新にして目に見え  
ぬ微細なる物をも、詳しく明にし、極々の新しき事柄を見出  
で、前代の世にためしむる治術のきよくに出で来るは、今の  
世の有様にあらずや。然れどもこの學も昔れく全國に波及せ  
ざれば、世の爲め國の爲めに益する所少なかるべし。爰に本  
院の長遠山夫人顯微鏡學の普及なほかり本院を建て給ひし

祝 詞

茲ニ本日ナトシ第九回顯微鏡講習科第二第五回種痘術講習科  
卒業證書授與ノ盛典ヲ舉行セラル卒業生諸君ノ光榮何カ之ニ  
加ヘン願フニ 我ニ諸君諸君ノ進歩ヲ喜ビ且テ爾等ノ進歩ニ委  
ト辛酷刻苦一日ノ如ク毫モ怠色ナク而シテ今ヤ學業成テ告  
ガ和氣津々空ニ遊ルノ理ニ卒業少輩ヲ得テ治ヲトメ其快知  
ルベキナリ嗚呼今日ノ光榮ハ實ニ吾顯微鏡院ノ光輝ヲ發揚ス  
ル所以ニシテ 微子ノ最モ歡喜ニ堪ヘザル所ナリ然ト雖至學  
途ノ茫渺トシ感慨ナク願 微子ノ師ヲ大塚先生ニシテ 愈進ミテ

明治廿九年五月十九日

東京顯微鏡院講習科

今井仙太郎 謹白

愈々活々として往々血を種カレ可シ諸氏請フ今日ニ安シキニ奮  
進奮行技ヲ杏林ニ揮ヒ術ヲ刀圭ニ致シ益々斯道ヲ精奧ニ究メ  
天賦ヲ未ダ窮マザルニ欣ビ沈痾ヲ既ニ酬ハシニ同志ヲ激シ諸  
氏ノ受譽ニシテ亦以テ吾々顯微鏡院ノ最大榮譽ナラズナ  
諸氏大ニ努力ヲラフコト切ニ希望ス後予不肖故テ末学ヲ巧メ  
難攻ヲ難マシト欲シテ在リテ爾ヲ勵励ニ謀リ謀リ親調ニ代ヒ  
願フ云

推時明治廿九年五月十九日

東京顯微鏡院助手

名川徳太郎 再拜

●**回歸熱講習** 去月廿九日午後二時より東  
京顯微鏡院内に於て内田彦雄、高田群司等の諸  
氏發起となり市内開業醫中斯道に熱心なる諸氏  
相會し遠山博吉氏及醫學士入澤達吉氏を招待し  
て回歸熱診斷法實習會を催されたり内田氏先づ  
該會首唱の主旨を述べられ終りて遠山氏は同病

に臨する顯微鏡的並に細菌學的の性質及検査法  
に就て周到に講演せられ入澤氏は回歸熱傳染の  
歴史及症候治療法等診斷上の要點を漏さず講演  
せられたり當日は市内のみならず近縣より篤々  
出席せられたる有志者もあり會する者五十餘名  
に達し終了散會したるは午後七時なりと云ふ全  
院階上には數十種の回歸熱スピロプラズマの圖  
式及左に掲ぐる數種の全標本を陳列して講師は  
懇ろに説明せられたりと云ふ

(1) 回歸熱スピロプラズマの生活狀態(新鮮血液)標  
本裝置(2) 同乾燥標本(メネーレン青染色)(3) 同上  
(4) グンテアル法に據り染色したるもの(4) 齒垢ス  
ピロレン(5) コレラ便中のスピルレン(此二種は  
参照用とす)

●**回歸熱血液採取法に就て** 近々東京  
顯微鏡院へ諸方より回歸熱疑診患者の血液検査

を依頼せらるゝもの漸々これある由なるが其中  
の多數は何分にも採取の方法宜を得ず或は血液  
の數滴を小器に盛り或は兩硝子板間に乾燥固着  
せしめ或は他の流動物又は消毒藥等を混したる  
か如きものすらありて多くは検査の成果を得ず  
折角依頼者の熱心注意も爲めに水泡に歸すると  
多量由なるが元來「オーペルゲル」螺旋菌は  
結核其他の細菌と大に其性質を異にし些細の外  
感などへは蒸溜水に逢ふも已に其態を變する程  
のものなれば血液採取に際し注意に缺くる所必  
れば現在血中に存するものを發現し能はざるに  
至るべければよく注意して採取し送附せざ  
れば勞して功無きに至るべしとて同院にては心  
を勞せられては中醫學新誌上に其注意を廣告せ  
られ居るは之が爲めなりと云ふ

●**廓大微菌圖幅**

此度顯微鏡院にて豫約

を募集し調製發賣する圖幅は方二尺五寸餘の大圖  
の由抑も細菌の如き精細なる者の圖の精巧を缺  
けるは元來圖畫の能ある者は細菌學の智識に乏  
し、學者は圖畫に巧ならざる等の難事ありて  
斯道に遊ぶ者の常に遺憾とする所なりしか此度  
東京顯微鏡院にて調製せる廓大微菌圖幅と稱す  
る者は斯道に精通せる某學者が嘗て畫道にも妙  
あるを幸ひ同院講師遠山博吉氏と協議研究の末  
氏等が實地より就き觀察せる所を基礎とし旁ら内  
外の微菌圖の精を放さ之に參酌して描出せる者  
なれば微菌至微の將形、配列、着色等に至りて  
宛然眞物を取りて鏡下に照見せるに寸毫の差な  
く東洲に於て刊行せる圖類と雖ども多く其類を  
見ず特に各微菌の廓大は眞物の五千倍五寸餘、  
日本製掛幅なれば講義、演説、實驗室、病院、  
診所、講義等に掲げて人に説明するに最も妙